

鹿角市の通説異説

〔99〕01大湯環状列石の謎／有名になれば丸裸

①大湯環状列石の組石「石英閃緑ヒン岩」は、米代川支流大湯川大河原集落付近の川原石です。

◇組石採取推定位置→ (GeoHack)

<https://twitter.com/GCZsakurada/status/1444425883486351363>

②居住地

当時の大湯環状列石の人達の居住地は、組石採取地点と万座環状列石の間の崖（岩山）でした。

即ち、「万座」と言う岩山に住んでいました。岩山には、清水が流れていました。

岩山は、其処と大湯川左岸上流方向集宮倉沢風張～大湯盆地へと繋がっていました。

集宮は、もともと岩山で、その上流の大湯盆地は、天然のダム湖でした。

岩山は、その後流失しました。今は集宮にその痕跡を見ることが出来ます。

〔付記〕

夏至の頃、野中堂環状列石と万座環状列石とを結ぶ緯度線上に夕日の美景を觀賞することが出来ます。

なおこの緯度線は、岩石などのように永久的に固定されていませんので、当時の緯度線方向を検証（確定）することは出来ません。

このような夕日の美景は、其処から東方の山麓草木台地からも觀賞することが出来ます。

この地域の人達は、縄文時代から、このような美しい夕日に郷愁を感じていたのでしょう。

③住宅事情

さて、通常の住宅は木造の高床式でした。

冬季は、竪穴式住宅を利用することもありました。

何故なら夏は地表には、ツツガムシなどの魑魅魍魎（病害虫）が蔓延するからです。

同じく夏になると、男衆は山辺に樹上櫓住宅を作って生活していました。

◇参照：有名になれば丸裸

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~gln/joumon/18iseki/maruhadaka.htm>

鹿角市の通説異説へ戻る

<https://twitter.com/GCZsakurada/status/1443256164158869506>